

父子関係が児童期後期の対人関係に及ぼす影響~日本と中国における 実態調査と比較分析

○符 蓉影* 犬飼 亜子** (*埼玉大・院 **埼玉大)

【目的】本研究は、日本と中国における児童期後期の子どもの対人関係と父親自身の特徴並びに父子関係の実態を把握し、その関連について解明することで、子どもの対人関係を促す父親の機能や父子関係について考察を行うものである。

【方法】小学校5、6年生の子どもとその父親(日本211組、中国196組)を対象に、1999年5、6月に質問紙調査を実施し、 χ^2 検定、重回帰分析を行った。

【結果・考察】①日中両国共に、父親の親役割意識が高いほど父子コミュニケーションが多く、その有り様に関する父子の認識の一致が、子どもの社会性の成熟度や対人関係における積極性の高さに関連していた。また、日本では、父親が子どもの対人関係における積極性を期待すること、一方、中国では、父親が自身の対人関係における積極性が高いことや、対人関係に関して子どもに良い影響を与えるという自己評価をもつことが、父親に対する子どもの好感情を生み、子どもの社会性の成熟度を高めることが明らかになった。②日本の父親は、子どもと積極的かつ共感的に関わることを責務と受け止め、父親自身が交友関係を広げ対人関係モデルになることが望まれる。中国では、子どもに対する過剰な期待を控え、学業偏重を改め、子どもが友だちと十分遊ぶ時間を保障することが必要である。